

平成 19 年 10 月 4 日 エネルギー特別委員会 村田 質問

一 泊発電所について

(一)泊発電所3号機の建設工事の進捗状況について

泊3号機は、近い将来における本道の電力の安定供給に不可欠な電源である。運転開始が少しでも遅れれば、2009（平成21）年の12月最大電力に対して、必要な供給予備力が確保できなくなる。しかし、相次いだ放火と見られるボヤによる工事の一時中断や対策として監視体制が強化されたことなどにより、建設工事の作業効率が低下しているとの指摘もある。工事の完成や3号機の運転開始に支障が生ずるおそれがないのか伺う。

答弁 資源エネルギー 嶋崎 卓夫 課長

泊発電所3号機の建設工事の進捗についてであります。

○北海道電力からは、「7、8月に発生した不審火の防止対策に伴い、建設工事に若干の影響はあったが、監視カメラの増設や入退域箇所における管理装置の設置など、ハード面の対策の実施などにより、工事の進捗が回復してきている」との説明を受けているところ。

○8月20日現在の工事進捗率は80.6パーセントとなっており、北電では、「今後とも、計画どおりの平成21年12月の運転開始に向け安全管理を徹底し、工事を進めたい」としているところ。

一 泊発電所について

(二)管理強化による影響について計画通り進めて行けるとのお話ですが、地元では様々な声を聞くのですが北電では、建設現場での一人行動を制限しているが、その結果、工事に従事する作業員の数が増加し、それによる人件費の増加などの影響が下請けや孫請けの事業者にも及んでいると聞いている。道として、そうした実態を調査する考えがあるか伺う。

答弁 資源エネルギー 嶋崎 卓夫 課長

管理強化による影響についてであります。

○北電からは、「泊発電所3号機の建設に携わる作業員の数は、7月に建設作業を一時中断したことにより、一時的に減少していたが、現在は、不審火が発生する前の体制（約1,500名）に戻っている」との説明を受けているところ。

○道といたしましては、北電や元請け事業者において 下請け事業者などに対し、法令に従い、適正に対処されるものと考えているところ。

実態として、不満の声もある

一 柏発電所について

(三) 原子力防災訓練について

今月 30 日には、原子力防災訓練が実施される。新潟県中越沖地震により柏崎・刈羽発電所で発生したさまざまな事故や 3 号機の建設現場で相次いでいるボヤ、1 号機の手動停止などにより、地元住民の不安が高まっており、防災訓練には多くの住民が参加するものと思う。そういう意味で、今回の防災訓練は、これまでにも増して重要な訓練である。高橋知事は、是非、地元で、訓練に参加すべきと考えるが如何か。

答弁 原子力安全対策 石川 照高 課長

(答 弁原子力防災訓練についてであります)

○今年度の防災訓練では、新潟県中越沖地震により東京電力柏崎刈羽原子力発電所が火災を引き起こし、住民に不安を与えたことを踏まえ、火災を想定した通報連絡訓練や自衛消防隊による初期消火訓練の実施を予定しているところ。

○また、原子力防災訓練では、知事は、原子力災害対策本部長として、本部において訓練の指揮に当たることとなりますが、委員の御指摘もありますので、本年度の訓練において、知事の役割について検討して参りたい。

検討とのことですが、前向きに願う電源対策協議会 各部局からなる連絡会議 要望事項 CO2 の問題等数多くある (質問とは別に H19-10-5 自民党道連 自民党議会として北海道電力近藤社長に相次ぐ不祥事に対し、安全対策の徹底を要請した。)